

次代を拓く「ノブオ電子株式会社」

国内はもちろん、世界にも通じる静岡県の「ものづくり」。
新技術や新分野への挑戦によって、世界での活躍が期待される県内企業は後を絶たない。

今号は色彩を忠実に再現するシステムを開発し、
色見本の国際標準を目指す浜松市の企業「ノブオ電子株式会社」を紹介する。

世界初の技術で、見たままの感動を再現。



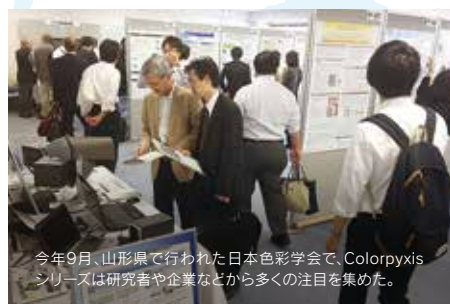
電子色票と忠実色再現カメラを組み合わせた自動分光設計装置。例えば、ケーキがおいしく見える照明スペクトルを見つけることができる。



Colorpyxixシリーズに属すスペクトルLEDボード「CP130」。16の原色を合成できる。電子色票として使うことで大学や企業の実験・研究にも応用できる。

国際規格を目指す電子色見本

現代社会の色彩は光の三原色である赤(Red)、緑(Green)、青(Blue)のRGBで表現されることが多い。しかし、人間の目はRGBの領域を超える色彩も識別できるため、三原色の配分は同一であっても実際の色合いが違って見えるケースは少なくない。そんなRGBの規格に限界を感じた浜松市の企業・ノブオ電子(株)は静岡県光・電子技術関連産業を後押しする「フotonバレー」に参画し、静岡大学や他企業と協働で人の目で識別できる色彩を忠実に撮影できるデジタルカメラ「CP4000」を開発した。ただし、同機は製造コストが高く、広く普及させるためには多くの課題を残している。そこで同社は発想を転換。忠実色再現画像システムを応用し、RGBに変わる



今年9月、山形県で行われた日本色彩学会で、Colorpyxixシリーズは研究者や企業などから多くの注目を集めた。



創業者(現相談役)の中村信夫さん(右)と代表取締役の鈴木均さん。「次代を拓くのは人間力と開発力です」と中村さん。

色見本の国際標準を目指す「Colorpyxix」シリーズを完成させた。これらの機器は2016年に試験放送が始まるスーパーハイビジョンに対応できる広色域カメラや広色域ディスプレイの設計、開発、品質管理、校正などに不可欠な製品群となるため、同社の色見本が国際規格となる可能性は高い。実際、シリーズ中のハイエンド機「CP1000」は現在策定中の国際規格ISO17321-4において、世界初の準拠製品になると見られている。

忠実な色再現で感動を提供

ノブオ電子は電子機器の製造を行う企業として昭和57年に設立された。当初は大手メーカーから注文を受けて電子計測機器等を製造していたが、近年は自社ブランドに軸足を置き、革新的な技術で次

代を見据えた製品を開発・製造、販売している。その中核を成すのが「Colorpyxix」シリーズだ。同社の代表取締役・鈴木均さんは「肉眼で見たままの色彩を再現すると素材感まで伝わります。例えば、野菜、木材、布などは質感とともに風合いも明確に分かります。その特性を生かせば、遠隔医療、ネットショッピング、電子会議など、多彩なジャンルで応用が可能です」と語る。

少数精鋭の中小企業でありながら産学官連携のネットワークを活用し、世界をリードするノブオ電子。「美術館で感じる原画の迫力を再現し、その感動をネットで配信するサービスも手がけてみたい」と鈴木代表の言葉通り、同社の夢は世界中へ感動を届ける道へつながっている。

Company Data

ノブオ電子株式会社

静岡県浜松市西区雄踏町宇布見4004

電話: 053-592-9292

<http://www.colorpyxix.com/>